

第 22 年度 事業報告のまとめ

事業の目標

「限られた状況のなかでも、子どもたちとの活動をつくり続けた一年」

さまざまな活動が中止になるからこそ活動し続ける。

昨年度は、計画を立てたいくつかの事業はコロナの影響もあり、中止・休止、終了ということにもなった一年となりました。恒例の全体行事としてのこどもフェスタも、全事業が集い、さまざまな地域の子どもや親子連れが楽しむ規模の大きなものは実施することができませんでした。緊急事態宣言からはじまり、さまざまな制限のなか委託事業なども進める必要があり、参加するにも制限や配慮が必要と窮屈な思いをさせてしまったこともあるかもしれません。そのようななかではありましたが、こどもフェスタも完全中止ではなく、このような時代だからこそできる形を模索しようと、秋からは小規模かつ、半年間かけての 40 周年記念もかねた年間イベントとして取り組むことができました。コロナだから中止ではなく、コロナだからこそ子どもとの育ちの環境をなくさないための活動を多くのみなさま協力のもと進めることができました。

コロナの感染者が増えるたびに、活動の実施については担当が悩み、工夫をし、時には休止も検討しながら活動をしてきました。そのなかで、子どもたちや保護者の方々からの「やってほしい」「きてよかった」「やっと会えた」「楽しいことがなかったから活動あってよかった」という声にも励まされたこと大変感謝しております。おかげで実施に踏み切った事業や 40 周年事業としてのこどもフェスタは無事終わることができ、新年度につなげていくことができたと考えています。

事業・運営の見直しへ

一方で、運営面では、対外的に収入をえてきた講演会や、講演会の機会にご協力いただいた募金、またチャリティイベントなどの収益からいただいていたご寄付などがなくなり、厳しい決算ともなりました。コロナの影響をご心配いただき、多くの物資やサポートもいただき、新たなご縁が広がったものの、年間でみるとコロナの影響は大きかったといえます。そのなか、昨年度増えた固定費支出の軽減のために、事務所の移転などにも動き出し、その目処がたつところまでできました。

またこれまで長く取り組んできたわんぱくクラブや、創作劇といった事業は接触がさけられないことや、活動に関わる学生の大学からの活動制限などもあり、一旦活動を休止することや、このタイミングでの終結となるという結果になりました。しかしどの活動も子どもたちと様々な体験をともにする重要な場でもありましたので、形を変えながら、今後も活動を届けられるよう検討しなければならないと考えています。

この 40 年間で活動も活動に関わる人も広がり、多くの子どもたちと関わるできるようになりました。一方で広がったからこそ、コロナの影響も大きく受けたとも考えられます。その点では、広がり方の見直しをしながら、あらためて子どもたちの生活圏である、この山科・醍醐エリアのなかでさらに参加も活動づくりも身近にできる環境整備も行なっていく必要があると考えています。

法人全体 <総会ならびに会議報告>

【第 22 年度通常総会】

日時・場所 2020 年 5 月 24 日（日） 13：00～16：00 本願寺山科別院 多目的会館

審議事項 第 1 号議案 議事録署名人選出の件
第 2 号議案 第 21 年度事業経過報告承認の件
第 3 号議案 第 21 年度事業活動決算承認の件
第 4 号議案 第 22 年度事業計画承認の件
第 5 号議案 第 22 年度事業活動予算承認の件

【理事会】

理事 10 人、監事 2 人で構成。

会 場 山科醍醐こどものひろば内「こども生活支援センター」、オンラインにて開催

開催日 2020 年 4 月 25 日(土) 8 月 30 日(日) 12 月 19 日(土)

2021 年 3 月 28 日(日)

【事務局会議】

法人事務に関して概ね月 1 回程実施し、業務遂行にあたった。

第22年度 各事業報告

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	当初の予算額 (千円)	決算額 (千円)
舞台芸術 鑑賞活動	—	—	—	—	—	—	—
子どもが自 ら創る体験 活動事業	こどもフェスタ2020&40×20周年 事業 前身団体から設立40周年にかけ て40個の小規模イベントを実施。	9月～3月	地域一円	15	地域の 子どもと大人 320人	450	107
	町たんけん 地域を知り、その中での出会いから 人と人がつながり、より良い地域 になることを目指した。小学生と のたんけん活動の他にも、幅広い 啓蒙活動(小学校や地域連携)を 予定していたが、コロナ禍で実施 出来なかった。	通年(夏～春)	地域一円	13人 (スタッフ・ ボランティア・ 講師)	小学生17名 とその家族	330	297
子育てサ ポート事業	げんきスポット0-3(ぞろさん) 未就園児を持つ親と、その子ども 達のサポートを常設会場「げんき スポット」にて実施する。屋根のある 公園を目指す。 ※京都市の委託事業	毎週火～土曜日	げんきスポット	8	地域の 子どもと大人 のべ3360人	6789 (委託金6519)	7133 (委託金6946)
	あかちゃん劇場COUCOU 0～3歳の親子向けの人形劇と ワークショップを開催 ※京都新聞社会福祉事業団 子 育て応援助成事業	11月11日	アスニー山科	10	40	—	100
	楽習サポートのびのび 集団活動が苦手な子どもや、学習 機会の少ない子ども、また経済的 等の理由で体験活動の機会がな い子どもへの個別(生活・学習・余 暇)支援事業。	通年	地域一円	—	—	—	—
	子どもの貧困対策事業 集団活動が苦手な子どもや、学 習機会の少ない子ども、また経済 的等の理由で体験活動の機会が ない子どもへの個別(生活・学習・ 余暇)支援事業。コロナ禍の影響 を受けた家庭に食材・衛生用品の 配布支援も実施。 ※京都地域創造基金事業指定助 成事業 ※近畿ろうきん「笑顔プラス」寄付 ※一般社団法人生活クラブ福祉 事業基金新型コロナウイルス感染拡大に よる緊急助成	通年	地域一円	23人	子ども: のべ224人	4500 (助成金4000)	2568 (助成金249)
	ひとり親家庭等への生活・学習・ 居場所サポート事業(子どもの貧 困対策事業) 伏見区醍醐・小栗栖地域を中心 に、小学校高学年の子どもとその 家族へのサポートを行う。 ※京都府委託金事業	通年	地域一円	23人	子ども: のべ224人 保護者: のべ21人	8350 (委託金8350)	8607 (委託金8607)
ボランティ アサポ ート事業	ボランティア・研修部 ボランティア希望者の、各事業へ のコーディネートを行なった。	通年	当法人事務所	4	—	—	—
	講師派遣・インターンシップ受入 事業 当法人スタッフの講師派遣及び当 法人におけるインターン希望者の 受入を行う。	通年	地域一円	4	—	—	127
	のびのび@たいむ のびのび事業の利用を終えた高 校生等の居場所とボランティア推 進事業。	通年	地域一円	5	のべ23人	—	—

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	当初の予算額 (千円)	決算額 (千円)
広報・出版 事業	コッペパン 広報誌「コッペパン」の発行。	季刊	—	2	1,000部を4回	—	—
	ひろばつうしん 会員向け情報誌「ひろばつうしん」 の発行。 イベントや活動の参加募集チラシ、 外部団体のチラシなども発送。	月刊	—	—	150部を12回	—	—
	ひろばの本 「貧困とひとりぼっちのないまち」 の頒布を通じて、ひろばの広報や 社会への啓発を進める	通年	—	—	—	—	28
	サポートBOOK 「子どもの貧困課題に地域で取り 組む支援者のアクションサポート BOOK」の頒布、活用。 読書会の開催。	通年	—	—	—	—	—
	ホームページ 当法人におけるホームページの 定期的な更新情報の発信及び、 基本情報の公開を行う。	通年	—	—	—	—	—
ネットワー クづくり事業	分野連携ボランティアネットワー ク事業 当法人登録ボランティアと子ども 分野の活動団体とのネットワー クづくりを行う。	通年	—	—	—	—	—
	みんなの家 フリースペースとして開放。 (主催: 社会福祉協議会)	第1、第3、第5 月曜日	こども生活支援セ ンター	2	—	—	—
	山科子育て応援団 社会福祉協議会を事務所として 山科で子育てサークルや子育て 支援をしている諸団体との交流を 行う。子育て支援サロンを開催す る。	4月～3月 8月休み 年間11回	社会福祉協議会 他	13 (ひろば内3)	のべ300	—	—
	子どもの居場所づくりに関するアド バイザー事業 子どもの居場所づくりをしている個 人・団体への相談・研修を行なう。 ※京都市社会福祉協議会の委託 事業	通年	京都市内	—	—	—	1000 (委託金1000)
	中3勉強会(おぐりす・だいが・醍 醐支所) 生活保護受給者等中学生学習支 援プログラム。 ※京都市ユースサービス協会委 託事業	通年	醍醐事務所 トハウス 醍醐支所	23人	3人 3人 11人	2706 (委託金2706)	3013 (委託金3013.)
	企業との連携 企業からのボランティア体験の受 け入れや、イベントでのボランティ ア呼びかけなど。	通年	—	2	—	—	—